

行事予定

2023(令和5)年12月～2024(令和6)年3月

【特別展／企画展】

2023年 10月23日(月)～12月18日(月)

西南学院大学博物館×福岡県立図書館共同企画展／
シーボルト来日200周年記念
「シーボルトと近世の蘭学者たち」
【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室

【テーマ展示・相互貸借特集展示(小規模展示)】

2023年 9月25日(月)～12月18日(月)

2023年度テーマ展示I
「異国のあにまるずー異国人とともに描かれた動物ー」
【場所】西南学院大学博物館1階常設展示室

2023年 11月10日(金)～2024年 2月18日(日)

2023年度西南学院大学博物館×國學院大學博物館
相互貸借特集展示(西南学院大学博物館資料)
「創られたキリシタン像(イメージ)
ー資料からみるキリシタンへのまなざしー」
【場所】國學院大學博物館(東京都渋谷区)

2023年 11月13日(月)～2024年 2月9日(金)

2023年度西南学院大学博物館×國學院大學博物館
相互貸借特集展示(國學院大學博物館資料)
「近代刀剣学序説ー「山姥切國廣」発見の頃ー」
【場所】西南学院大学博物館1階廊下

2023年 12月20日(水)～2024年 4月4日(木)

2023年度テーマ展示II
「楽譜とことばー祈りの歌のカケラたちー」
【場所】西南学院大学博物館1階廊下

2023年 12月22日(金)～2024年 4月中旬

2023年度西南学院大学博物館×南島原市相互貸借特集展示III
「近世庶民の生活と生業ー約山大島と佐渡島ー」
【場所】原城図書館(長崎県南島原市)

【イベント】

2024年 3月23日(土) 14:00～16:00

2023年度せいなんワークショップ
「聖書植物の押し花しおりづくり」
【場所】西南コミュニティセンター2階会議室
※定員10名／事前申込制

【休館】

毎週日曜日 休館

2023年12月25日(月) キリスト降誕祭

2023年12月28日(木)～2024年1月5日(金) 冬季休館

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号

TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室

URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、

年末・年始[12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

YouTube 西南学院大学博物館 @seinan_museum @seinan_museum

来館者掲示板

【来館者の言葉】

私の母が西南学院大学の卒業生でした。美術史の後藤先生の授業を当時受けていたそうです。私は今、大学生で、母が通っていた同じ年齢の今、同じ大学に来て感慨深かったです。ユダヤ教が好きなので、常設展、とても面白かったです。(2023年9月)

初めて博物館に入ってみたのですが、リフレッシュできたり、歴史をかんじられてたのしかったです。日本史にでてきたシーボルトについて深く知れておもしろかったです。(2023年9月)

200年以上前の地図にも、現在に通ずる地名があることがわかってよかった。また、かぼちゃとジョージ君を探しながら展示品を見るのが楽しかった。(2023年10月)



今月も多くの方々にご来館いただき、また初めて来館される方も多く大変うれしく思います。博物館に寄せられたお褒めの言葉やご指摘も、今後の方針に活用させていただきます。

10月23日から12月18日にかけて、シーボルト来日200周年を記念して「シーボルトと近世の蘭学者たち」を開催いたしました。たくさんのご来場ありがとうございます。

学芸調査員 村田 早紀

編集後記

博物館ニュースは2009年から発行をつづけています。とうとう今回で50号となりました。そして2023年度最後の号でもあります。今年も当館に足をお運びいただき、博物館ニュースを手にとってください、ありがとうございました。皆様が祝福と平和で包まれる新年となりますように。

学芸研究員 鬼東 芽依

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
- 博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
- 天神 → 西新駅下車 → 約8分
- ※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修験館前 → 約35分
- 天神 → 修験館前 → 約20分
- ※修験館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 50 2023.12

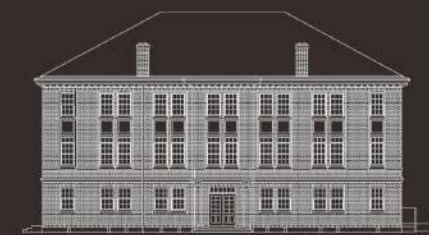
西南学院大学

所蔵品紹介 芝蘭堂新元会図(複製)

大学博物館のお仕事⑥ 「展覧会ができるまで その2」

博物館通信 「ステンドグラス風作品作り」ほか

展覧会紹介 「異国のあにまるずー異国人とともに描かれた動物ー」ほか



所蔵品紹介 特集

しらんどうしんげんかいず 芝蘭堂新元会図(複製)

Shirando shingenkaizu
(Illustration of Western-style New Year's party by Japanese Dutch scholars), Replica

明治時代 / 日本 / 福井信敏[版]
紙本石版 / 縦119.9cm×横113.3cm
原資料(大槻家旧蔵、重要文化財):1794(寛政6)年
江戸 / 市川岳山(画)、大槻玄沢(ほか[賛])
紙本彩色、軸装 / 早稲田大学図書館蔵

大変賑やかな宴の様子が描かれています。この宴の主催者は、蘭学者の大槻玄沢です。大槻玄沢は一関藩(岩手県一関市)出身で、ターヘル・アナトミアを翻訳し「解体新書」として刊行したことで有名な、前野良沢と杉田玄白に蘭学を学びました。その後、長崎に遊学して、オランダ通詞のもとでオランダ語を学び学識を深めました。1786(天明6)年に仙台藩医員として召し抱えられ、江戸詰となり京橋に居を構えます。この自宅を「芝蘭堂」と名付け蘭学塾とし、多くの門人を輩出、彼らは蘭方医や蘭学者として活躍しました。同じころ、玄沢による日本初の蘭学入門書「蘭学階梯」が刊行されます。玄沢は蘭学界の重鎮となり、後年は「解体新書」の重訂や、オランダ語百科事典の翻訳書「厚生新編」を刊行するなど、蘭学界に数々の功績を遺しました。

宴に話を戻しましょう。この作品に描かれているのは、オランダ人の新年の宴を模倣した「新元会」の様子です。長崎・出島オランダ商館では、オランダ人が太陽暦の新年を祝う宴をおこなっていました。宴には、長崎奉行所の役人や出島乙名・通詞など、関係の深い日本人も招かれており、日本人は「オランダ正月」と呼んでいました。玄沢はオランダ正月を模倣した「新元会」という宴を自宅の芝蘭堂で開催し、多数の蘭学者を招きま



した。初回は西暦1795年の1月1日(寛政6年11月11日)におこなわれ、以後1837(天保8)年まで続いたといわれています。

テーブルの上を見ると、ナイフやフォーク、ワイングラスなど、洋食器が使用されていたことが分かります。中には、洋服を着てオランダ人に扮している人も。彼らは酒を酌み交わしながら、今後の蘭学の発展を祈ったのでしょうか。賑やかな声がこちらまで伝わってくるようです。

学芸調査員 鬼東 芽依



SEINAN GAKUIN

大学博物館のお仕事 VI

展覧会ができるまで その2

今回は、展覧会の図面が完成しても、まだまだやる事が沢山ある、というお話で終わりました。ここにすべてを書くことはできませんので、今回はその一部を紹介いたします。

図面が出来上がり次第、パネルや資料解説の原稿を書き進めることが、一番重要な仕事です。しかしながらそれと同時に並行で、造作(展示室のデザイン)依頼・図録編集・ポスターやチラシ制作等の宣伝広告にかかわる作業が発生します。特に、展覧会の「顔」となるポスターとチラシの制作は時間のかかる作業です。

それを見て、「行ってみたいな」という興味を持っていただけないといけません。ど

の出品資料をメインビジュアルに採用するのか。展覧会タイトルの書体、書き方、配色、キャッチフレーズ...この作業は、担当者だけがやっていると拘りすぎたものになってしまう恐れもあるので、いくつかデザイン案を考えて、スタッフ全員の意見を聞いて決めます。

当館では、ポスターやチラシのデザインは基本的にスタッフがおこなっています。Illustratorというデザインソフトを使用して制作をおこなっています。

近年は予算削減のため、ポスターやチラシ、パネルのデザインはIllustratorを使用して自分たちでおこなう、という館が増えてきています。学芸員は、博物館資料の取り扱いに関する専門知識だけでなく、デザインや動画編集などのデザインソフトを扱える技術も必要とされてきているのです。

学芸員 鬼東 芽依



博物館通信

2023年8月から12月に行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

当館では、特別展や企画展以外にも常設展示室でおこなう小規模展示「テーマ展示」を定期的におこなっています。12月20日(水)からは、テーマ展示「楽譜とことば—祈りの歌のカケラたち—」を開催いたします。関連のイベントもございますので、ぜひ足をお運びください。引き続き多くの方に足をお運びいただけるようスタッフ一同精進してまいります。皆様のご来館、心よりお待ちしております。

学芸調査員 庄崎 詩香

- 2023年8月28日(月) おでかけワークショップ「スタンドグラス風作品作り」を実施しました。
- 2023年9月25日(月)~12月18日(月) テーマ展示「異国のあにまるず—異国人とともに描かれた動物—」を開催中です。
- 2023年10月23日(月)~12月18日(月) 企画展「シーボルトと近世の蘭学者たち」を開催中です。
- 2023年9月16日(土) せいなんワークショップ「和綴りメモ帳づくり」を実施しました。
- 2023年10月14日(土) おでかけワークショップ「スタンドグラス風作品作り」を実施しました。
- 2023年10月28日(土) おでかけワークショップ「カリグラフィでグリーティングカードづくり」を実施しました。
- 2023年12月9日(土) せいなんワークショップ「カリグラフィでクリスマスカードづくり」を実施しました。



展覧会紹介 開催中

2023年度テーマ展示I

異国のあにまるず—異国人とともに描かれた動物—

会期/2023年9月25日(月)~12月18日(月)
会場/西南学院大学博物館常設展示室

江戸時代、幕府はキリスト教の流入を防ぐため、海外との貿易や日本への来航を制限し、4つの窓口(長崎・対馬・薩摩・松前)のみが外国との繋がりを持っていた。そのような鎖国体制下で日本を訪れたのは「人」だけではない。動物たちもまた、将軍への献上や食用などを目的として異国の地からやって来た。その様子は長崎を訪れたオランダ人や中国人などを題材とした絵画や工芸品にも見ることができる。



展覧会紹介 予告

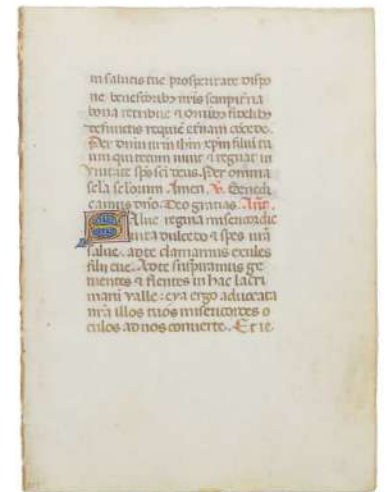
2023年度テーマ展示II

楽譜とことば—祈りの歌のカケラたち—

会期/2023年12月20日(水)~2024年4月4日(木)
会場/西南学院大学博物館1階廊下
主催/西南学院大学博物館
協力/シトー会伊万里の聖母トリスチヌ修道院
西南学院大学応援指導部吹奏楽団
西南学院大学グレゴリオ聖歌研究会
西南学院大学聖歌隊チャペルクワイア
西南学院大学ハンドベルクワイア
西脇純研究室(西南学院大学国際文化学部)

キリスト教には歌をうたって神を賛美する伝統がある。聖書にも「詩と賛歌と霊の歌により、感謝して神に向かって歌いなさい」(コロサイ3:16b)との勧めがあることから、歌は神への賛美と祈りそのものであると考えられてきた。例えばカトリック教会では「ミサ」や「聖務日課」をはじめとする様々な典礼があるが、それらのいずれにおいても聖歌が歌われる。とりわけ旧約聖書の詩編の歌唱は、そのような「歌」の代表格として、古代教会以来大切にされてきた。聖歌写本が詩編テキストを多く含むのはそのためである。

本展示では主に、聖歌の楽譜とテキストを取める12世紀から17世紀の資料を通して、ローマ・カトリック教会の「ミサ」と「聖務日課」の典礼と聖歌について紹介したい。



聖母交唱「サルヴェ・レジーナ」 Salve Regina
1450-80年/製作地不詳/羊皮紙に手彩



楽譜付きミサ典書写本断片 A Cutting from Noted Missal Manuscript
1150年頃/ドイツ(ラインラントカ)/羊皮紙に手彩